



語り部は語る

接ぎ木も素晴らし

植木の町、たぬしまる

伝説の生き河童、鯉とりまあしやん

巨峰を狩る

ディズニー漫画こけし

田主丸中央商店街シャッターアート

心はろばろ心ゆたかに、河童族



語る、田主丸。

File

01-

07

Kataru
Tanushimaru





<https://youtu.be/Sd5o-yVP9I0>



「伸びゆく田主丸」という昭和40年代の田主丸を映し出した16mmフィルム。ここには昭和の時代を生き抜いた田主丸の証が記されています。そしてこのフィルムが出てきたことによって今と昔を繋ぐ語りが始まる。

語り部

菰田 馨蔵 さん



田主丸生まれの田主丸育ち。九千坊本山田主丸河童族の一人でいつも久留米餅のファッションに身を包む餅好人。その経歴から役所河童と呼ばれる。「田主丸の河童のことなら菰田さんに聞け」と言われるほど、田主丸河童の伝説、歴史、文化的背景などの知識が深く、小学校の河童教室の先生役や町内河童巡りの案内役を何度も務めてきた。「ちっごの国田主丸河童ブログ」やfacebookを通じて、河童に限らず田主丸や筑後地方の見どころ・出来事を日々発信し続ける。

石橋 俊一 さん



こちらも田主丸生まれの田主丸育ち。参加するサークルは驚くほど多い。たとえば、くじらの森に蛍を舞わせるまちづくり団体「保太流の会」をはじめとして、手作りカヌーで子供達に川を楽しんでもらう「楽生水澄の会」、田主丸の郷土史を研究する「田主丸郷土会」、葛籠^{かずら}を制作する「工房 Tei」、中国・内モンゴル自治区の砂漠で植樹活動を30年近く続ける「田主丸町緑の応援団」。幅広いサークル活動経験と豊かな子供時代の体験で、田主丸の魅力を語る。

語り部さんが語る様々な田主丸の面白さは、P30-31に掲載のQRコードを読み込んでください。



接ぎ木も
素晴らし。

KATARU TANUSHIMARU
File 01



目的とする木を別の木に接いで成長させる「接ぎ木」。この栽培技術により江戸時代から田主丸は植木が盛ん。その証拠に、今現在でも柑橘類の接ぎ苗では全国のシェア8割以上を占めている。接ぎ木には欠かせない接ぎ木小刀には「田主丸型」と呼ばれているものもあり、田主丸の接ぎ木における全国の周知度がここでも知れる。先人たちが残してくれた接ぎ木への技術と想いを胸に、田主丸では一本一本丁寧に木々が接がれている。







植木の町、
たぬしまる。

KATARU TANUSHIMARU
File 02



「伸びゆく田主丸」



植木が盛んな田主丸では、古くから植木苗木を売り買いする植木市場が開かれ賑わった。また、自分たちが大切に育てた植木苗木を、祭りや家などに売りに行く「ふれ売り」いわゆる「行商」したことで、田主丸の植木の素晴らしさは全国に伝わり、今では「日本三大植木苗木の町」として知られるほどに。余談なのですが、昔は久留米の飲み屋街に「剪定ばさみ」をぶらさげていくと、高級なクラブでもツケがきいたという話もあるんだとか。







伝説の生き河童、
鯉とりまあしゃん。

KATARU TANUSHIMARU
File 03



筑後川で素潜り魚をしていたまあしゃんに酒の肴として「鯉抱き^{うだ}」を
みせて欲しいと頼んだのが、「鯉とりまあしゃん」が全国的に有名に
なった始まりだといわれている。鯉抱きとは、鯉を自分から無理に捕
りに行こうとせず、静かに近寄ってくる鯉を抱き寄せる伝統の漁法。
ときに鯉を両手両脇、さらに口にもくわえとってきては、鯉料理を振
舞っていた。今でもまあしゃんの伝説と精神は語り継がれています。





巨峰を狩る。

KATARU TANUSHIMARU
File 04



「伸びゆく田主丸」



「巨峰」の本格的な栽培が始まったのは田主丸というのをご存知だろうか。また観光巨峰園発祥の地としても有名で、数々の歴史あるぶどう園が生まれている。今も数多くの巨峰狩りの観光客で賑わうが、昔はバスの行列で休日は渋滞するほどだったという。農園の中でコーラを売ったり流しそうめんをしたり、全日空とコラボをして撮影会なんかも行われ、賑わっていたそうだ。今では巨峰を使ったワインをはじめ数多くの種類のワインが製造されている。







ディズニー
漫画こけし

KATARU TANUSHIMARU
File 05



「伸びゆく田主丸」



今ではディズニーといえば日本で知らない人はいないと思う。しかしまだ東京ディズニーランドが日本に出る前の昭和30年代、ディズニーに目を付けていた人が田主丸にはいたのだ。ディズニーから版権を買い、「漫画こけし」という名でディズニーキャラクターの、今で言うフィギュアを作って、全国に販売し海外へも輸出した。ビジネスへの好奇心が田主丸の歴史を作っているといっても過言ではないと思う。





田主丸中央商店街
シャッターアート。

KATARU TANUSHIMARU
File 06



江戸時代の街道筋がそのまま残り、多くの建物が昔から変わらぬ情景を映し出す商店街。夏になると夜市祭も行われて賑わいを見せていたり。そんな商店街を歩いているとお店のシャッターに田主丸に縁のある絵が描かれていた。地元の高校生が授業の一環で描いているのだとか。若い世代と商店街の繋がりをアートという形で垣間見る。近くの川に架かる橋の欄干には、かっぱの石像達がさまざまなポーズを決めている。





KATARU TANUSHIMARU
File 07

心はろばろ心ゆたかに、
河童族。



田主丸といえば河童。河童駅舎ができたのも、人の姿をした河童一族「九千坊本山田主丸河童族」が生存する土地だからこそ。鉄河童・へそ河童・役所河童などと呼びあう彼らは、昭和30年からカッパ文化で田主丸を席卷すべく、橋の欄干や広場に河童像を並べ、家々に河童水墨画や版画をばらまいてきた。はては河童まつりで、人間の子供達を河童好きにしまうほど。今後も、田主丸は彼らのいたずら好きに巻き込まれるはず。









語り部は語る

QRコードを読み込むと視聴できます。

語る、田主丸。

Kataru
Tanushimaru

File 01 - 07

Special Issue

2020.05

発行元：河童族

写真：井上食堂 (Curio graphy inc.)

デザイン：DICTOM DESIGN

File 01

「接ぎ木も素晴らし。」



九州農園 (田主丸町殖木)
栗木直樹さん・トシ子さんご夫妻

ご主人が田主丸型小刀で台木を割り、穂木を削って台木に挿す。すぐさま、奥さんが密着テープでそれを巻く。接ぎ木は、二人一組で初めて成り立つ。九州農園さんでは、接ぎ木などの植木体験(くる農)や農家民泊(泊まらん農)も体験できる。

File 02

「植木の町、たぬしまる。」



田主丸町植木農業協同組合 (田主丸町益生田)
組合長 田籠春義さん

九州最大の卸売り植木市場。毎月5と0の付く日に開かれる競りには、九州全域はもちろん中国・四国地方からも集まってくる。取り扱う商品は、植木や鉢物だけでなく庭石など造園関連の部材まで幅広い。

金華園 (田主丸町牧)

代表 二又朋則さん

祖父の代から続く植木屋3代目。若手植木生産者集団3P's、植木屋あろまなど「植木」の町おこし活動にも積極的に参加。最近では、店舗向け植木リースTREESeも展開中。

File 03

「伝説の生き河童、鯉とりまあしゅん。」



鯉とりまあしゅん 鯉の巣 支店 (田主丸町田主丸)
大将 上村政昭さん

鯉の巣本店と共に、地元の人が恋して止まぬ川魚料理を提供。九千坊本山田主丸河童族でもある上村政昭さんの豪放磊落さも併せて味わうべし。

File 04

「巨峰を狩る。」



巨峰ワイナリー (田主丸町益生田)
工場長 相良武志さん・農園景觀部部长 鳥越祐介さん

日本で初めて巨峰の本格栽培を可能にした九州理農研究所がここにあった。今日も巨峰は大切に育てられ、ワインに生まれ変わる。九州初の『ワインの森大学(ワイン造り教室)』では、一年を通し、ぶどう栽培からワイン製造までを体験することができる。

File 05

「ディズニー漫画こけし」



漫画こけし工場 (田主丸町田主丸) ※現在はありせん

昭和30年代にウォルトディズニーと版權を結んでの全国唯一の漫画こけし製作。昭和40年初めの頃は、製作された3分の1が海外輸出されたという。

File 06

「田主丸中央商店街シャッターアート」



福岡県立浮羽工業高等学校 (田主丸町田主丸)
環境デザイン科 ビジュアルデザイン班の
生徒さん達と横山慶先生

三年生が毎年、一年間かけて課題研究として取り組むシャッターアート。楽しんで描くその姿は商店街そして田主丸町の活力源に。

File 07

「心はろばろ心ゆたかに、河童族。」



九千坊本山田主丸河童族 (田主丸町田主丸)
藤田公一郎さん [へそ河童]・
原田憲司さん [鐵工河童]・
菰田馨蔵さん [役所河童]

昭和30年から、河童で地域活性化を展開する九千坊本山田主丸河童族。河童の水墨画、版画、折り紙、鉄工アートなどの芸術や和菓子、川魚料理などを創作したり、河童めぐりの案内をしたり。また、河童まつりや耳納の市などで子どもとの触れあいを深め、小学校での河童教室を開くなど河童文化の継承に努める。